

健康ぷらざ

No.336

企画:日本医師会

もしかしたら 「加齢黄斑変性」?

「最近、なんだか物がゆがんで見える」

「視力が弱くなったのか、字がぼやける。年なのかなあ」

「加齢黄斑変性」という病名を耳にしたことはありませんか?

「黄斑」とは、目の後ろ側を覆う網膜の中心にあり、

物を見るのに大切な細胞が集まっている部分です。

つまり、年をとって黄斑がダメージを受ける病気が加齢黄斑変性です。

この病気には2つのタイプがあります。

病的な血管が生まれ、急激に視力障害が起こる「滲出型」と、

細胞が萎縮して徐々に視力が低下する「萎縮型」です。

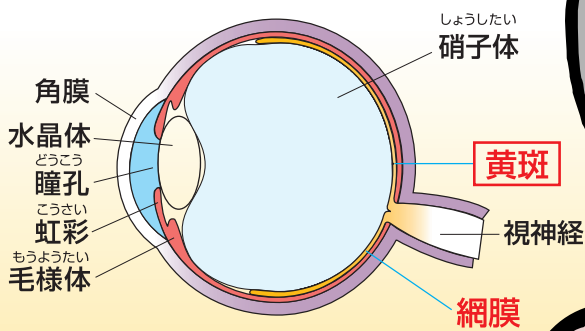
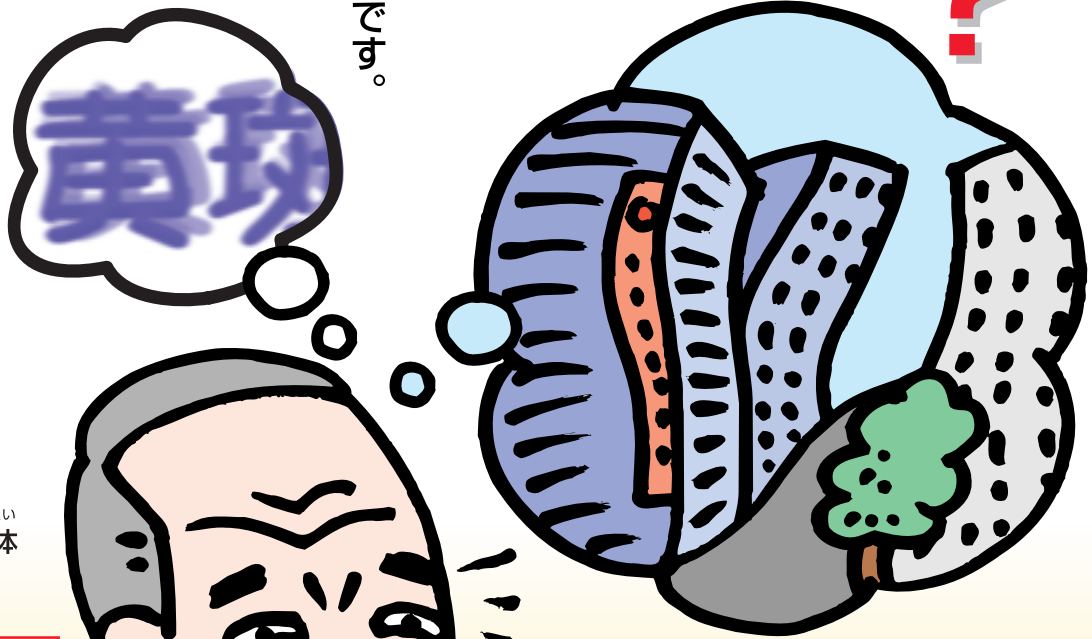
ともに老化現象によるものですが、

進行が早い滲出型には最近よい治療法や薬が開発されてきました。

滲出型は片目ごとに症状が出てくることが多いので、

片目を閉じて一方の目で、物のゆがみやボケがないかをチェックしてください。

50歳を過ぎたら年一回は目の定期検診を受けるようしましょう。



目の構造

黄斑部は目の奥の網膜の中心にあり、視力とかかわりの深い部分です

片目を隠して見て、方眼紙の真中がゆがむようなら要注意です

指導：順天堂大学医学部眼科准教授 河野 博之

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。